Ⅱ　注記事項

1．貸借対照表関係

⑴　運営費交付金から充当されるべき賞与及び退職手当の見積額

賞与の見積額	893,556千円
退職手当の見積額	13,792,531千円

⑵　担保に供している資産

土地	11,819,800千円
建物	6,896,623千円
担保提供資産に対応する債務残高	8,831,767千円

⑶　減損の認識

①　減損を認識した固定資産の用途、種類、場所、帳簿価額等の概要

用　途	種　類	場　所	帳簿価額
通信設備	電話加入権	山形県山形市他	2,492千円

②　減損の認識に至った経緯

通信設備については、市場価格が著しく下落しており、回復の見込みがあると認められないため、減損を認識している。

③　減損額のうち損益計算書に計上した金額と計上していない金額の主要な固定資産ごとの内訳

用　途	種　類	損益計算書に計上した金額	損益計算書に計上していない金額
通信設備	電話加入権	—千円	—千円

④　減損の兆候の有無について、複数の固定資産を一体として判定した場合における、当該資産の概要及び当該資産が一体としてそのサービスを提供するものと認めた理由

該当なし。

⑤　回収可能サービス価額

通信設備については、正味売却価額と比較して高いため使用価値相当額により測定しており、使用価値相当額は東日本電信電話株式会社からの再調達価額を採用した結果、帳簿価額を上回ったため減損損失は計上していない。

2．損益計算書関係

⑴　附属病院において法人設立時に国から承継した診療機器等に係る資産見返勘定戻入額

資産見返物品受贈額戻入	31,785千円

3．キャッシュ・フロー計算書関係

⑴　資金の期末残高の貸借対照表科目別の内訳

現金及び預金	7,355,878千円
うち、定期預金	93,198千円
うち、定額貯金	8,992千円
差引資金期末残高	7,253,687千円

⑵　重要な非資金取引

①　現物寄附による資産等の取得

建物	20,100千円
工具器具備品	112,522千円
図書	30,954千円
美術品・収蔵品	11,000千円
消耗品	30,996千円
計	205,573千円

②　ファイナンス・リースによる資産の取得

工具器具備品	1,021,901千円

⑶　その他の事項

①　教育研究関連業務支出は、教育・研究に関する支出である。

②　診療関連業務支出は、診療経費に関する支出である。

③　その他の業務支出は、主として一般管理費の支出である。

4．重要な債務負担行為

⑴　当期年度末時点における重要な債務負担行為は以下のとおりである。

（単位：千円）

契約名称	契約の相手方	契約金額	翌期以降支払金額	
			一年以内	一年超
山形大学（医病）病棟改修工事	飛島建設株式会社	2,364,810	1,041,600	921,960
山形大学（医病）病棟改修電気設備工事	弘電社・電機鉄工特定ＪＶ	879,375	405,300	311,745
山形大学（医病）病棟改修機械設備工事	高砂・三機・黒澤特定ＪＶ	2,157,750	1,009,050	882,780
合計		5,401,935	2,455,950	2,116,485

⑵　年度末時点における独立行政法人国立大学財務・経営センターが承継した財政融資資金への債務保証の総額　4,653,424千円

5．重要な後発事象

該当事項はない。

附　属　明　細　書

㈱附属明細書の記載金額は表示単位未満を切り捨てて表示している。

⑴　固定資産の取得及び処分、減価償却費（「第83　特定の償却資産の減価に係る会計処理」による損益外減価償却相当額も含む。）並びに減損損失の明細

（単位：千円）

資産の種類		期首残高	当期増加額			当期減少額	期末残高	減価償却累計額		減損損失累計額			差引当期末残高	摘要
			現物寄附	購入等	増加計				当期償却額		当期損益内	当期損益外		
有形固定資産（特定償却資産）	建物	21,402,411	—	1,942,671	1,942,671	2,986	23,342,096	6,134,414	1,221,690	46,963	—	—	17,160,718	
	構築物	1,331,943	—	18,303	18,303	1,063	1,349,183	493,534	90,002	—	—	—	855,648	